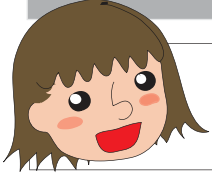




知床科学委員会 しんぶん

知床世界自然遺産地域 科学委員会 NO. 11



「知床で今何が起きているの!」「どんな調査が行われているの!」など、タイムリーな情報をお伝えします。

科学委員会って?

科学委員会は、様々な分野の専門家が集まり、知床世界自然遺産のよりよい保安全管理のための科学的なアドバイスをする組織です。科学委員会の下には、エゾシカ、ヒグマ、海域、河川、エコツーリズムについて話し合う5つの関連会議が設置されています。

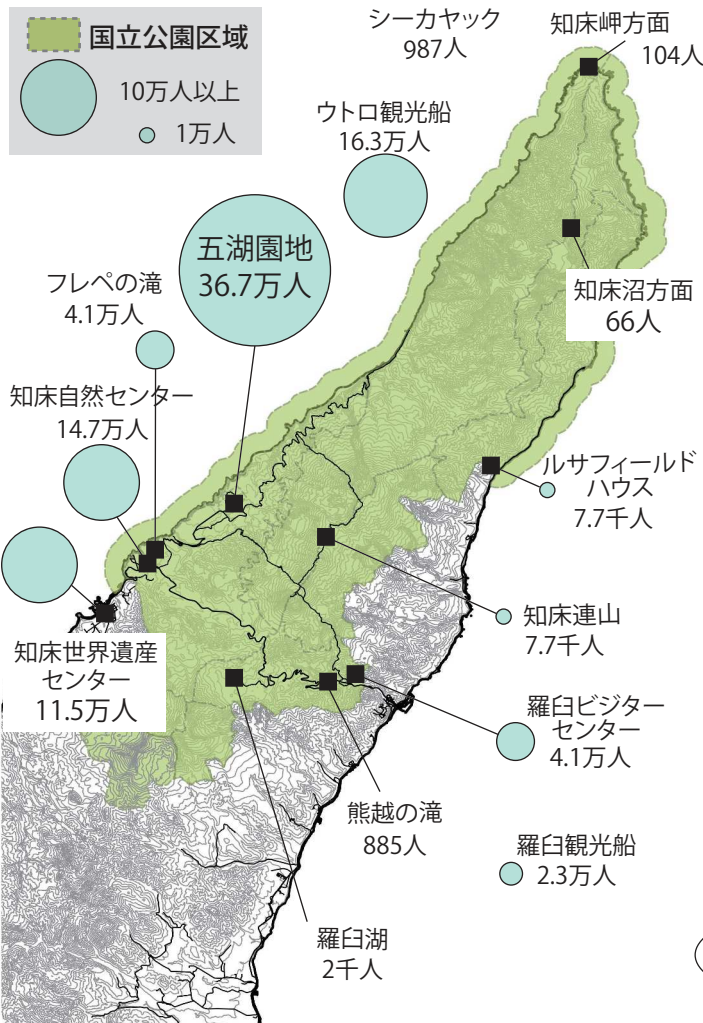
今回の会議

平成29年2月21日(火)に、札幌市の北海道大学学術交流会館で今年度第2回目の会議が開催されました。

必見!
TOPIC



長期モニタリングではどんなことをやってるの?



知床の今の姿を知ることが大事!

知床は、海と陸との繋がりによって生まれる特異な生態系や、世界的にも希少な野生生物が分布すること等が評価され、平成17年に世界自然遺産に登録されました。これからも知床が世界自然遺産であり続けるためには、遺産に登録された時の状態を守らなければなりません。そこで知床では、その時々の変化に応じた対策をとるために様々な調査を続けています。

モニタリングの対象は、自然から観光まで多岐にわたります。例えば、知床を訪れる人の数もそのひとつです。左の図は、平成27年に知床の主な観光スポットや登山道、トレッキングコースを利用した人の数を表しています。最も利用者が多かった知床五湖には約37万人が訪れました。また、知床の自然を代表する知床連山には、約8千人もの利用者が訪れました。

知床五湖やウトロの観光船が目立っているね。



(図: H27年度知床国立公園適正利用等検討業務報告書等から引用)

知床の観光利用は、遺産登録からどう変化したのでしょうか。裏面でご紹介します。

注目!

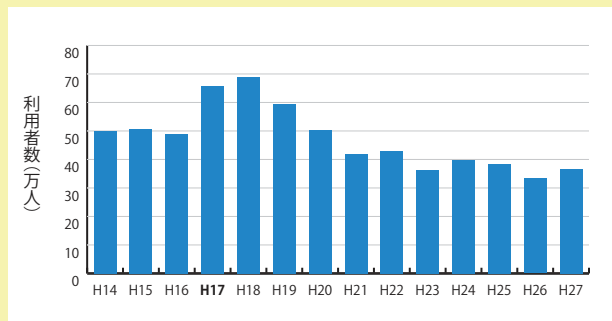
グラフで見る 知床の10年

知床は、昭和39年に国立公園に指定されたことを始まりに、「知床旅情」のヒットや知床横断道路の開通によって多くの人を訪れる「観光地」となりました。特に、世界自然遺産に登録された平成17年前後には、利用者数が増加しました。

その一方で、特定の場所や時期に利用が集中することで、交通渋滞や植物の踏みつけの問題が発生しました。また、ヒグマへの接近など、自然を利用する上での課題も生まれました。

さらに、ヒグマやクジラ、海鳥等の野生

知床五湖の利用者



五湖園地全体の利用者数

五湖園地は、遺産登録をピークに年間約40万人が訪れる主要な観光スポットになっています。ヒグマが生息するエリアで、より安全に自然を楽しむための取り組みとして、「利用調整地区制度」が導入され、平成23年にスタートしました。

羅臼湖トレッキング

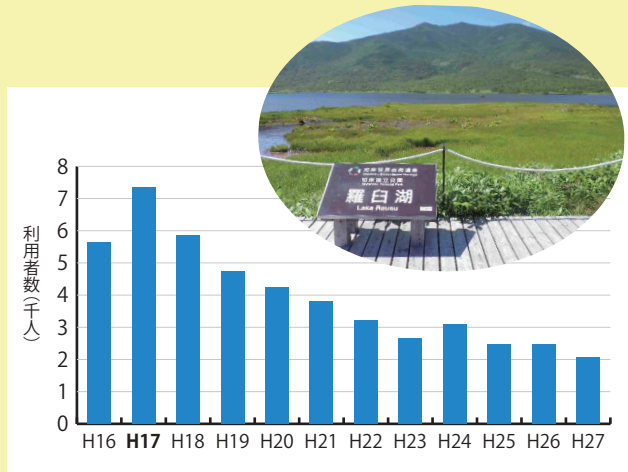
羅臼湖歩道は、比較的アクセスが容易であり、高山帯の湿原や高山植物、原生的な知床の自然景観を体感できる人気のトレッキングコースです。



羅臼湖歩道の利用者数は、遺産登録後は減少傾向にありますが、今でも年間約2千人が訪れています。

人気の高まりとともに貴重な植生への影響が心配されるようになり、平成22～24年にかけて利用のあり方について話し合いが行われました。その結果、ルートの付け替えやルール作りが行われました。

平成24年に完成した羅臼湖を利用する上でのルール（羅臼湖ルール）を周知するポスター

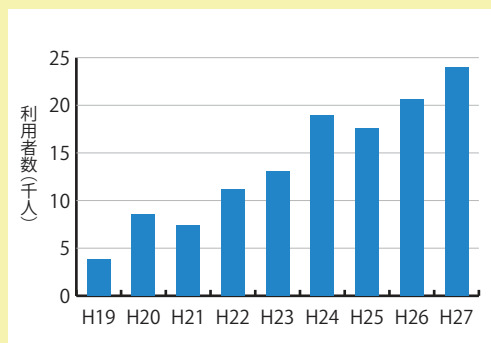


羅臼湖歩道の利用者数

野生動物ウォッチング



羅臼沖の観光船の利用者数は大きく増加しました。マッコウクジラやシャチを観察できるホエールウォッチングが目玉となっています。



羅臼沖クルーズ利用者数

動物を観察するツアーなどの体験型の観光が増え、外国人観光客の増加もあり、知床の観光利用はこの10年で多様化しています。このような中で、知床ではより良い形で自然を利用するための取り組みが進められています。知床五湖では、国内2例目となる利用調整地区制度が導入されました。また、平成25年から知床エコツーリズム戦略に基づき、新たな利用の提案やルールについて地域が主体となって話し合う場が作られています。

会議やバックナンバーの内容をもっと知りたい方はコチラ

知床データセンター で検索!

<http://dc.shiretoko-whc.com/>

ここで紹介したグラフや、知床で行われている様々なモニタリングデータをご覧いただけます!



■問合せ先■ 環境省釧路自然環境事務所

〒085-8639 北海道釧路市幸町 10-3 釧路地方合同庁舎 4 階 TEL 0154-32-7500 FAX 0154-32-7575

■発行：環境省

■制作：公益財団法人 知床財団

■発行日：2017年2月